

2025 年度 学校法人 三幸学園 大宮ビューティー＆ブライダル専門学校 自己評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 和田 忍

学校関係者評価委員会委員長：吉野 秀樹

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持続し、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

前年度重点施策振り返り

年々、学校の規模が大きくなり、新しい教員も増え、後輩育成に関してや学生指導の統一などの課題が多くなった。学生指導については「基本を徹底する」という目標を昨年に続き掲げて取り組んだ。目標を全体会議等で全教員へ浸透させ、全教員が学生を成長させるための教務運営を実施した。また、学校行事、就職指導、授業などを連動させ、『素直な心・感謝の気持ち・高い意欲を持続し、自ら考え自ら行動することで、社会に貢献する人材を育てる』ことを意識した教務運営を行った。広報活動ではそれぞれの教員が担当を持ち、広報方針を少人数で決定し、全メンバーへ発信する形式を継続した。それによって課題解決がスムーズに進み、少子化が進む中、例年を大きく上回る入学者を迎えることができた。また就職活動では、各分野順調に内定を頂くことができた。企業やサロンとの連携も年々増えており、多くの卒業生の活躍にも繋がっている。今後は、後輩に本校を勧めたくなるような教務、就職活動を行う必要があり、次年度に向けてさらに底上げした学校運営が必要になると感じている。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

ビューティー分野、ブライダル分野ともに、学校の理念・目的・育成人材像は業界ニーズを踏まえて明確に定められており、学生および外部へ周知している。学生に対しては、入学直後の研修や就職対策、学校行事などを通じて継続的な周知を行っている。また、保護者に対しては保護者説明会の実施や専用スマートフォンアプリを活用した情報発信を行っているが、十分な浸透には至っておらず、さらなる理解促進が課題となっている。関連企業に対しても、企業訪問や産学連携の機会を活用しながら、本校の教育方針や取り組みについて継続的な周知を図る必要がある。

② 今後の改善方策

保護者の理解をさらに深めるため、対面による保護者説明会を継続的に実施するとともに、参加率向上に向けた取り組みを検討していく。また、関連企業に対しては就職ガイダンス等の機会を活用し、学校運営や教育方針に関する説明を実施していく。情報を一方的に発信するだけでなく、相互に情報交換を行いながら理解を深められる関係性の構築を目指す。さらに、保護者専用スマートフォンアプリの効果的な活用方法を検討し、保護者との連携強化を推進していく。

③ 特記事項

教職員に対しては、全体会議や学科会議等を通じて、三幸学園のミッション・ビジョンの理解を深める機会を定期的に設け、継続的な浸透を図っている。

また、保護者および学生に対しては、入学前の保護者説明会において教育方針への理解と協力をお願いしている。入学前にはオープンキャンパスでの体験入学や個別相談会、入学前オリエンテーション、保護者説明会等を実施している。入学後はスタートアッププログラムを通じて、学校の理念・目的・育成人材像を周知するとともに、それらの実現に向けた個々の目標設定を行い、日々の学校生活の中で実践につなげている。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

目的に基づいた計画のもと事業運営を行うとともに、運営組織については年度ごとに体制を構築し、効率的な運営に努めている。教育活動に関する情報は外部へ公開しているものの、周知度や理解度は十分とは言えないため、さらなる周知活動の強化が必要であると考えます。また、情報システムの効率化は進んでいるが、依然として改善の余地がある業務も存在するため、今後も順次システムの導入を進めていく予定である。

② 今後の改善方策

教育活動に関する情報を外部へ効果的に発信するため、外部の情報や事例も参考にしながら、本校の取り組みを広く周知できる仕組みや発信機会の充実を図る必要がある。

③ 特記事項

教職員への情報伝達については、迅速な情報共有とペーパーレス化の推進を目的として、Microsoft Teams および Sanko Gate を活用している。

また、業務のシステム化として、出退勤時間の入力、経費精算システムによる申請、給与明細の電子化などを導入し、業務の効率化を図っている。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

学校理念および業界のニーズに基づいた教育活動を適切に実施しており、資格・検定取得に向けた支援体制も整備されている。また、カリキュラムについては教育課程編成委員会からの意見を参考にしながら、業界が求める人材像に即した内容となるよう編成している。一方で、多様化する学生への対応に必要な知識や情報を習得するための研修機会は十分とは言えず、教員一人ひとりの対応力の向上が今後の課題となっている。

② 今後の改善方策

学生と関わる全教員を対象に、学生理解を深めるための研修を実施していく。また、優秀な教職員の確保に向けて、卒業生に対し教員というキャリア選択肢を積極的に周知するとともに、卒業生採用の強化を図り、人材確保を進めていく。

③ 特記事項

前期・後期ともに、教員の授業力（専門性・実践力）の向上と学生の授業満足度向上を目的として「授業の進め方アンケート」を実施している。アンケート結果は教科担当者へフィードバックし、授業改善につなげている。また、産学連携や地域貢献活動にも継続的に取り組み、実践的な学びの機会を充実させている。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題

ビューティー分野、ブライダル分野ともに就職率は概ね横ばいで推移している。一方で、退学率の低減は引き続き重要な課題となっており、退学に至る要因として「目標喪失」や「人間関係」が多く挙げられることから、密なコミュニケーション、人間関係構築力を高める取り組みを検討していく必要がある。

また、卒業後のキャリア形成の成果を把握するためにも、卒業生の活躍状況を継続的かつタイムリーに把握できるよう、卒業生と学校とのつながりを強化していくことが求められる。

② 今後の改善方策

良好な人間関係の構築にはコミュニケーション能力の向上が不可欠であることから、学生同士をはじめ、卒業生や企業関係者など、多様な立場の方々と交流できる機会の充実を図る。

また、卒業生を対象とした「同窓会 LINK」をより効果的に活用するとともに、継続的に卒業生向けのプチ同窓会を開催し、交流や情報共有の場を提供できるよう準備を進めている。

③ 特記事項

前年度卒業生を対象としたプチ同窓会を開催した。また、卒業生向け同窓会サイト「Sanko Link」のホームページおよびInstagramを活用し、卒業生支援や情報発信の取り組みを実施している。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

各クラスに担任を配置する担任制を導入し、学生一人ひとりを支援できる環境を整備している。一方で、教職員間におけるキャリアサポート力には差が見られ、支援の質の均一化が課題となっている。

また、就職活動においては学生本人への指導・支援は実施できているものの、保護者との連携が十分ではない面も見受けられる。キャリア教育については学科ごとの特性はあるものの、全体として就職支援体制は概ね整備されている。

② 今後の改善方策

教職員のキャリアサポート力向上を目的として企業訪問を実施し、企業が求める人材像や業界動向の把握に努めるとともに、その情報を学生への進路支援に活用していく。

また、学生の希望する就職先や職種が多様化していることを踏まえ、各業界の企業との連携を強化しながら、卒業生を活用したキャリア支援の充実を図る。さらに、教職員によるキャリアサポートチームを構築し、就職支援体制の強化と就職率のさらなる向上、企業との連携強化に取り組んでいく予定である。

③ 特記事項

学生の経済的支援として、奨学金制度や各種教育ローンに関する案内を行っている。また、生活環境面の支援として、提携寮等の紹介を実施している。

高校との連携については、職業理解や進路選択を支援するガイダンス等に協力している。

さらに、退学者を対象としたアンケートを実施し、その結果を分析することで、今後の学校運営や学生支援の改善に活用している。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

学生数の増加に伴い、施設・設備のさらなる活用方法の検討や環境整備が必要となっている。学外実習やインターンシップについては、各業界の協力のもと受入体制の整備が進んでいる。一方で、海外研修については、実施時期や内容に応じた多様なプログラムを提案し、より充実した機会を提供していく必要がある。

また、防災対策については一定の体制が整備されているものの、防災意識の維持・向上を図るため、継続的な啓発活動が求められる。

② 今後の改善方策

施設・設備面については、学生数の増加に対応しながら、より良い教育環境を提供できるよう運用方法の工夫や環境整備を進めていく。

また、防災対策については、教職員会議における防災訓練や各種講習会(ADE 研修会を含む)を実施し、防災意識の向上と対応力の強化に努める。

③ 特記事項

企業との連携を通じて、業界が求める人材像や現場のニーズを把握し、インターンシップ実施前の事前指導から終了後の振り返りやアドバイスまで一貫した支援を行うことで、卒業後に業界で活躍できる人材の育成に取り組んでいる。また、防災・安全管理の一環として、非常食や飲料水などの備蓄品の整備を進めるとともに、職員室内への防災用品の設置を行い、安全対策の充実を図っている。

(7) 学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

埼玉県および専修学校・各種学校に関する各種ガイドラインに基づき、適切な学校運営を行っているため、現時点で大きな課題は見受けられない。今後も高等学校との連携を継続し、本校の教育活動への理解を深めていただくとともに、業界や専門学校を取り巻く現状について情報提供を行い、相互理解の促進に努めていく。

② 今後の改善方策

現行の取り組みを継続しながら、関係法令や各種ガイドラインを遵守し、適切な学校運営に努めていく。

③ 特記事項

高等学校における特別授業等を通じて、業界の魅力や職業理解を深めるための活動を実施している。
また、入学前に抱くイメージと入学後の実態との間にギャップが生じないよう、正確かつ丁寧な情報提供に努めている。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

なし

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

2025年度は第3期中期経営計画(2023年度～2027年度)の3年目にあたり、東京未来大学及び小田原短期大学の中期計画改定を反映し、第3期中期経営計画＜第2.0版＞を策定し年度開始時より適用した。中期経営計画及びその進捗状況はホームページ上に公開している。

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

自己評価の結果に基づき課題の改善に取り組んでいるが、その内容や改善状況について教職員への周知が十分に行き届いていない点が課題である。

② 今後の改善方策

教職員への継続的な情報共有を行うとともに、課題を明確に整理・分析し、改善策の立案から実施までを迅速に進める体制づくりを推進していく必要がある。

③ 特記事項

なし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

産学連携の取り組みを継続的に実施することで、学生が学外へ成果を発信する機会が増加するとともに、地域貢献・社会貢献活動へ参加する機会も拡充している。

今後もこうした機会を継続的に提供できるよう、企業との連携体制を維持・強化していくことが課題である。

② 今後の改善方策

学生の学びや成長につながるボランティア活動の機会をさらに充実させるため、地域との連携を継続するとともに、関連企業との関係強化および新たな連携先の開拓を進めていく。

③ 特記事項

近隣の通信制高等学校において実施されている進路発見プログラムの一環として、体験授業への講師派遣を行い、職業理解や進路選択の支援に協力している。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

全体として、多くの評価項目において「適切(4)」または「ほぼ適切(3)」の極めて高い評価を得ており、教育理念である「技能と心の調和」に基づいた健全かつ効果的な学校運営が実践されている。特に、前年度からの重点施策である学生指導の「基本」の徹底により、少子化が進む中でも例年を大きく上回る入学者を迎えることができた。また、業界ニーズを捉えた教育課程の編成と高い資格取得・就職実績により、企業やサロンとの連携が年々拡大している点は大きな成果である。

高い評価を得ている一方で、今後のさらなる学校運営の底上げと質の向上のため、①教職員の資質向上と支援の均一化②学生支援および学修成果の向上（退学率の低減と同窓会組織の活性化）③教育環境の整備と安全対策 以上の課題に対して次年度以降、重点的に取り組む必要がある。

最後に、本校はビューティー・ブライダル分野の専門学校として社会や業界の期待に応える人材を安定して輩出しており、その役割を十分に果たしていると評価できる。今後は、本自己評価および学校関係者評価委員会から寄せられた有益な提言（メモを取る重要性の指導、率先して動く人材の育成、同窓会運営の工夫など）を真摯に受け止め、学校運営の PDCA サイクルを迅速に回すことで、在校生・卒業生が「後輩に本校を勧めたくなるような学校」の実現に向けてさらなる発展を目指す。